快適にお使いになるために

◎メンテナンスについて

撥水加工と防水加工の違い テント生地の加工には撥水加工と防水加工の2種類があります。通常、テント（フライシート）の外側の面には撥水加工（水をはじく加工）、内側の面には防水加工（水を通さない加工）が施されています。生地のメンテナンスをする上でこの2種類の加工の違いを理解していないと誤ったメンテナンスをして、かえってテントの性能を落としてしまうこともあります。撥水剤はテントの外側の面に塗布し、防水剤はテントの内側の面に塗布してください。また、寝室の壁や天井の生地には絶対に防水剤を塗布しないでください。生地の通気性が失われ、一酸化炭素中毒などの事故の原因になります。

1 撥水加工のメンテナンス
生地の撥水加工の効果が弱くなってきた場合は、まずテントを洗ってみてください。（洗い方については◎保管方法を参照）撥水加工が劣化しているのではなく、表面に水アカの層が付着して撥水効果が落ちている場合もあります。この場合は洗うだけで効果が回復します。また、生地にアイロンをかけるのも有効です。その場合はテントの外側になる面から低温でアイロンを当ててください。ただし、あまり集中してアイロンを当てると生地にダメージを与えてしまうのでご注意ください。撥水の効果がある生地に撥水剤を塗布しても、撥水剤自体をはじいてしまうため、定着しずらく、効果が短期間しか持続しません。そのため、上記のような方法を試してみて、それでも撥水の効果が回復しない場合に撥水剤を生地に塗布してください。

2 細かな部分の防水加工（目止め）
テントは完全防水という訳ではありません。シームシール加工をしていない縫製部分やマジックテープ、ファスナーなどの水を吸いやすい部分からは雨水が浸入します。こういった箇所の防水には液体かジェル状の防水剤（目止め剤）を塗り込むことをお奨めします。塗り込む部分のほこりや汚れを落としてからしっかり浸透させてください。市販の防水剤は乾燥時間の長いものが多いのでパッケージや説明書を良く読み正しくお使いください。

3 小さな破れや穴の補修
5～6cmの小さな破れや、火の粉で溶けた細かい穴などは、市販のリペアシート（シール加工された生地）を両面から貼り付けるだけで十分補修できます。キャンプ場での応急処置ではガムテープ等を貼り付けるのも有効です。ただし、ガムテープ等をあまり長時間貼っておくと、はがした時に粘着性が生地に残り、その後の修理が困難になるケースがありますのでご注意ください。

◎結露について

暖かい空気が冷たい空気（物）と接して、暖かい空気側の幕に水滴が付着することを結露といいます。これは、暖かい空気中に含まれている水分が急激に冷やされて露となって付着したもので暖かい空気の湿度が高く、温度差が激しいほど、結露はひどくなります。
テントの場合ではフライシート・内幕・グランドシートの内側に、タープの場合は内側に結露が生じます。

1 「換気を十分に行い、温度差をなくす」「通気性を高める」ことによって結露を軽減することができます。
2 防水加工をしていない生地や、透湿性防水素材（ゴアテックス®など）は、結露を軽減させますが、完全に防止することはできません。
3 結露によりテント（タープ）の内側に付着していた水滴が、急な雨などにより、フライシート（タープ）外側からたたかれて落ちてくることがありますので、あらかじめご了承ください。

◎保管方法

ご使用後は、完全に乾燥させてから、日光の当たらない風通しの良いところに保管してください。

1 幕体の汚れを落とす場合には、水で洗い流すか、乾燥した状態でブラシなどで払い落としてください。ひどい汚れの場合には中性洗剤を水で薄め、汚れた部分をスポンジなどで軽くこすった後、水で洗い流してください。ただし、強い液性の洗剤を使用したり、強くこすったりすると、生地外側の撥水加工（テフロン加工を含む）が極端に低下しますので、ご注意ください。
2 生地の外側を洗う時には、内側の防水コーティング面を傷つけないように注意してください。洗濯機で洗濯したり地面にこすりつけたりすると、コーティング面に傷がつく事があります。また、シンナーやベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。コーティング剤が溶ける可能性があります。なお、濡れたままで放置しておくと、カビが発生したり、含まれている水分が腐って悪臭の原因ともなります。
3 ポールはパイプの内側まで完全に乾燥させ、付着した泥などを拭き取って収納してください。
4 海の近くで使用した場合には、幕体とポールをよく水洗いし、塩分を取り除いて、十分に乾燥させてください。
5 幕体を濡れたままで車のトランクのような、高温になる場所に放置しておくと、極端な色移りや生地の劣化などが生じます。なるべく早く完全に乾燥させてから日光の当たらない風通しの良いところに保管してください。

◎保証について

本製品は、厳密な品質管理体制の下、小川キャンパルの技術と長年の経験を生かして製造されております。万一、品質不良が認められた場合には、無料にて修理または新品と交換させて頂きますので、弊社の「お客様相談室」まで御一報くださいますようお願い致します。また、1年以内に正常なご使用にもかかわらず破損した場合には、無料にて修理致します。ただし、次のような場合は、お買い上げ1年以内であっても有償修理となります。

1 商品用途以外でのご使用および不当な修理や改造による故障・損傷
2 台風、地震、火災、風水害などの天災による故障・損傷
3 ご使用後のキズ、変色、汚れおよび保管上の不備による損傷
4 取扱説明書を無視した使用による故障・損傷
5 紫外線などによる生地の劣化

◎修理について

修理を依頼される場合には、汚れを極力落とし、乾燥させた状態で、お買い上げになったお店に修理箇所を明記の上、ご相談ください。なお、修理費用につきましては、現品確認の上、算出させて頂きます。この往復の運賃は、お客様のご負担とさせて頂きます。

OGAWA CAMPAL
株式会社 小川キャンパル
本社／〒135-8471 東京都江東区福住1-14-7
TEL (03) 3641-7127（代） FAX (03) 3641-3972（代）

http://www.ogawa-campal.co.jp
札幌営業所／TEL (011) 668-2424（代） FAX (011) 667-2428
東京営業所／TEL (03) 3641-7128（代） FAX (03) 3641-3972
大阪営業所／TEL (0729) 62-1015（代） FAX (0729) 62-1018
福岡営業所／TEL (092) 572-9246（代） FAX (092) 572-9233

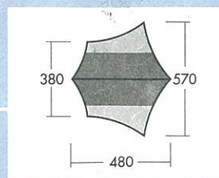
Ogawa カスタマーサービス係
03-3641-7127

取扱説明書

保管用

システムタープヘキサDX

3331



◆ご使用前に、「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

MADE IN P.R.O.C

安全上のご注意

キャンプにでかける前に良く読み、必ず一度建ててみてください。
⚠ 記号は警告・注意の内容であることを表します。

⚠警告

誤った取扱いをした時に、死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。

使用前に必ず取扱説明書を読み、一度組み立ててください。
キャンプにでかける前に、取扱説明書通りにポール・幕・付属品がセットされているかを確認し、必ず一度組み立ててください。まれに縫製上の不備やセットミスなどにより、テントが建てられない場合があります。テントを収納する時は、ペグ、張り綱、ポールなどのパーツの数量を確認してください。

海外で使用される場合は、事前に弊社の「お客様相談室」までご相談ください。
本製品は、日本国内での使用を前提としております。海外で使用し、事故などによりケガや損害が生じた場合、十分な対応ができません。

「取扱説明書」をお読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
ここには安全上に関する重大な注意事項を示しています。製品を安全に正しくご使用頂き、危害や損害を未然に防止するために、必ず守ってください。

キャンプ場やキャンプ許可地域以外では使用しないでください。
キャンプ場以外でのキャンプは、基本的に禁じられています。また、熟知していない土地では、どのような危険がひそんでいるか分かりません。特に河原でのキャンプは、雨やダムの放水などにより、急に増水することがあり危険です。

タープの下やタープの近くで花火やたき火をしたり、ランタン・キャンドル等の火気や燃焼器具を使用しないでください。
テントに防水加工生地が施されている生地は熱に弱く、燃えやすくなっており非常に危険です。また、突風などによりポールが倒れ、タープが上からかぶさり、引火する危険があります。

⚠注意

誤った取扱いをした時に、人が傷害を負ったり物的損害の可能性がある内容を示しています。

ポールを扱う場合には、周囲に十分気を配りながら、事故やケガなどないよう設営してください。
ポールは細く長いため、周囲にいる人（特に子供）の目に刺さったり、車などにキズつける可能性があります。

通行する人の妨げにならないようにタープを設営してください。
通行する人が、張り綱などを避けようと無理な通行をして、ケガの原因になることがあります。昼夜を問わず、通行する人が分かるような目印を張り綱に付けたり、タープのそばに通路を確保してください。

張り綱は指定された数を、きちんと張ってください。またペグはしっかり打ってください。
風でタープが飛ばされたり、水が溜まってタープがつぶれる危険があります。タープが吹き飛ばされた場合には、人や車、他のテントなどに当たって大きな損害になる可能性があります。また、ペグの頭が地面に触れるまで、しっかり打ち込んでください。ただし、設営する地面の状態や地質に応じてご使用ください。

就寝時や、強風時、雨天時にはタープを倒した状態にして、しっかり固定しておくか、畳んでください。
夜間、急に天候が変わることがあります。そのため、強風で外れたタープや倒れたポールなどで、タープの下の道具が壊れたり、雨水が溜まってタープがつぶれる危険があります。

タープはペグ・張り綱で固定する前は、突風などでタープが飛ばされないように注意してください。
周囲で火気を使用している場合、飛ばされたタープに引火する危険があります。

付属のペグ、張り綱をすべて使用し、タープがたるまないように組み立ててください。
タープ生地がたるんでいる状態では、雨天時、天井などに溜まった雨水でタープがつぶれたり、風の力が余計にかかって飛ばされる原因になることがあります。ペグは根本まで地面に打ち込み、張り綱は強いテンション（張力）を保つようにしてください。

タープを無人の状態で長時間、放置しないでください。
急な天候の変化等により、タープがつぶれたり、飛ばされる可能性があります。その場から長時間離れる場合にはタープを倒して、飛ばされないよう重りを乗せるなどしてください。

台風や、落雷の時には、キャンプ場の管理担当者の指示に従い、安全な場所に避難してください。
悪天候の時には、タープの下は安全な場所ではありません。台風など強風が吹いている場合には、タープを設営しないでください。もし、設営している場合には、すぐに撤収してください。また、雷雨時は、タープやポールに落雷する可能性もあり危険です。なお、キャンプ場内の避難場所は、必ず事前に確認しておいてください。

システムタープヘキサDX／組み立て方法

1 パーツを確認します

＜フレーム明細図＞

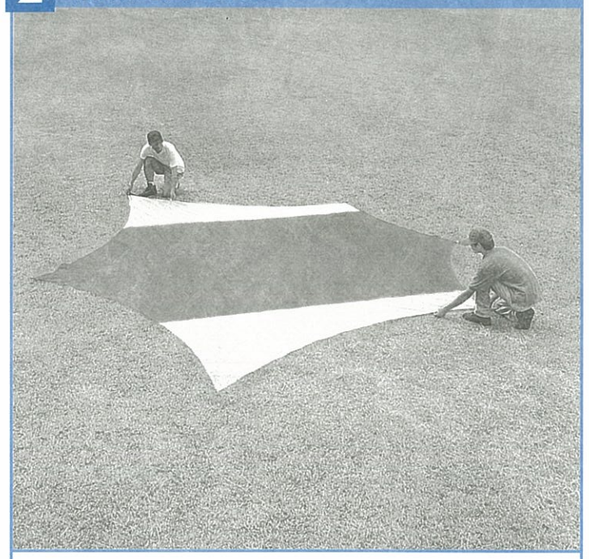
ラチェットポール／2本

プラペグ（大）／4本 プラペグ（小）／4本	 張り綱（長）／4本 張り綱（短）／4本	 金づち／1本

幕体と上記のパーツがセットされているか、確認します。
→張り綱は長いもの4本が頂上用、短いもの4本が側面用です。

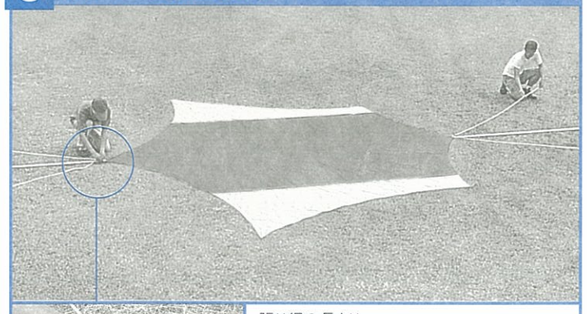
⚠設営時のご注意
タープの破損は設営時と撤収時に多く発生します。完全に設営が完了した状態で強度設計されています。風が吹いているときは作業を見合わせて、風が収まってから設営・撤収をするようにしてください。

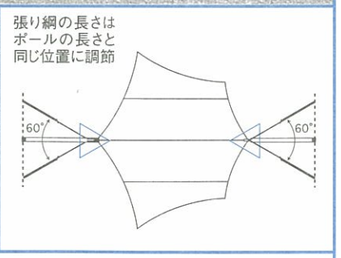
2 幕体を地面に広げます



幕体を地面に広げます。
幕体を配置する際はペグを打ちこむ場所を考えて周囲に余裕をみて位置を決めます。

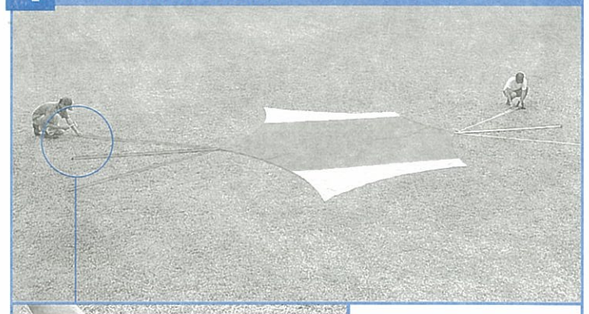
3 ポールを配置します

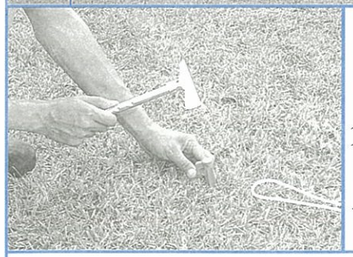


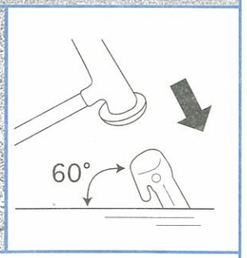


はじめに△印の箇所にジョイントを接続したポールを配置します。ポールの先端部をタープの前方側のリングと後方側テープのハトメに差し込みます。次に張り綱(長)の一端をループになるように結び、ポールの先端に2本づつ引っ掛けておきます。

4 ペグを打ち込みます

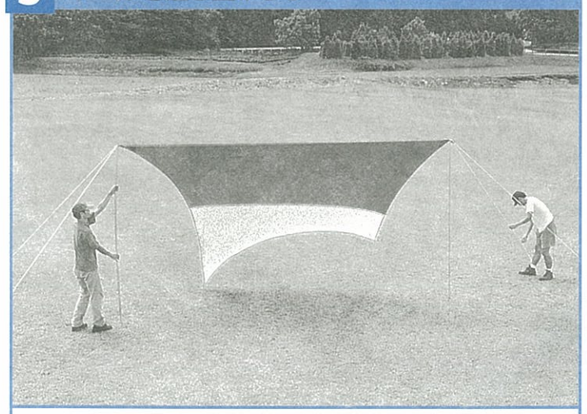






3 で配置した張り綱の先端付近の地面にプラペグ（大）をしっかり地面に打ち込み、張り綱を掛けておきます。

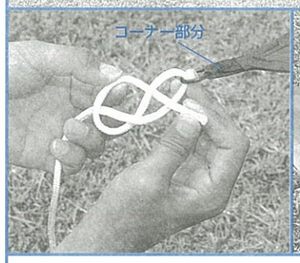
5 ポールを建ち上げます

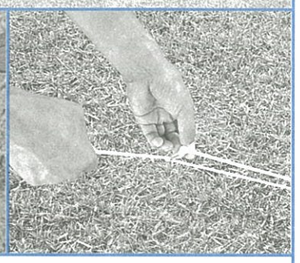


ポールを垂直に立て、張り綱の長さを自在で調節しながらポールと幕体をしっかり自立させます。

⚠ご注意
ペグを打ち込む際は張り綱をペグにかけた状態で打ち込まないで下さい。ペグが破損した場合、張り綱のテンションでペグの破片が飛ぶことがあり危険です。また、張り綱をハンマーで誤って打った場合も張り綱が断裂することがあり同様に危険です。ペグを打ち込む位置を決め、ペグを打ち込んだ後に張り綱をペグに掛けるようにして下さい。

6 タープ側面を張り出します





側面の四ヶ所に張り綱（短）を結び付けます。次にプラペグ（小）を地面に打ち込み張り綱を固定します。

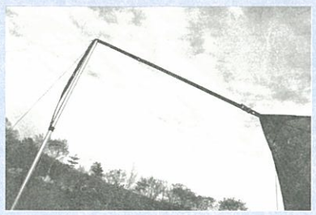
Point ペグを固定する位置はセットするポールの高さなどによって変化します。張り綱の端を持ち移動させてみて幕体にシワの出ない位置を探してプラペグ（小）を打ち込みます。

システムタープヘキサDXの使用例

●ドームテントとタープとの設営を一体化するセッティングテープ

ドームテントと接続する時はセッティングテープをジョイントします。

ポールを固定するハトメの位置をかえることで接続するドームテントとの距離を調整できます。



●ドームテントとの接続例

キャンプサイトの広さ、接続するドームテントの大きさ、気象状況などに応じてセッティングテープとラチェットポールを活用し、サイトレイアウトが自由にできます。

この説明書は水に強く破れにくい素材を使用しています。